

は産業報國運動と本會との關係より協調會の沿革にまで  
及び、その設立者より判断して官僚的なること、その資  
金の寄附者が資本家たること、以て資本家的であり、従つて  
反労働者的なること及び國家主義的である等の点を指摘  
して本會その物を非民主的なる機關と解釋するに至つた  
か如く見られた。

斯かる情勢が觀取された折、白根軍最前司令部經濟  
科學局労働課長コトエニ氏より本會幹部と懇談したとき  
の申述があつたので、同年六月三日赤田會長及び千葉、  
松村両常務理事は同氏を訪問して懇談した。席上コト  
エニ氏は大要次の如く語つた。

「協調會は労働運動を抑制する立場にあつた末次内

務大臣等の主唱によつて創立されたのであつた。その  
後の歴史は國家主義的であつて、労働運動を助成する  
ことか慫慂し、殊に労働組合運動を抑壓する立場とな  
つて来たことを認められた。この性格が産業報國會を生  
み出した。これからの後述に國家の統制下に戦争に協力する活  
動をするに至つた。産報の斯かる行き方に對して協調  
會が反對した事實は認めなければならぬ。最初に産報を生  
んだといふ事實の方は一層重大な關係を持つたものと  
はなげられぬであらう。

勿論、協調會のやつて来た事業のうちには賞讃に値  
いするものも亦多くあつたことは充分に認めらる。こ  
れ又最近に於ける諸君の努力に就てはよく諒解が出来る